

## 2020年度 小委員会活動成果報告

(2021年2月8日作成)

小委員会名	地震荷重外力小委員会		主 査 名：糸井達哉 就任年月：2019年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：塩原 等 主 査 名：高橋 徹
設 置 期 間	2019年4月 ～ 2023年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>2025年頃に予定される荷重指針次期改定を視野に置き、地震に起因する荷重外力についての最新の学術的知見を分析し、東北地方太平洋沖地震以降の時代の社会の要請にも留意し、建築物の性能設計とそこで求められる地震荷重や設計用地震動の望ましい近未来像への着実な歩みを次期荷重指針案に反映させる具体策を検討する。</p> <p>初年度：建築物の性能設計とそこで求められる地震荷重や設計用地震動の望ましい近未来像に向けた当面の重点課題の検討方針</p> <p>2年度：建築物の性能設計とそこで求められる地震荷重や設計用地震動の望ましい近未来像に向けた当面の重点課題の検討推進（1年目）</p> <p>3年度：建築物の性能設計とそこで求められる地震荷重や設計用地震動の望ましい近未来像に向けた当面の重点課題の検討推進（2年目）</p> <p>4年度：荷重指針次期改定の具体的なポイントの絞り込みと原稿素案の作成</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：糸井達哉（東京大学） 幹事：田中浩平（鉄道総合技術研究所）、森井雄史（清水建設） 委員：石井透（清水建設）、境茂樹（安藤ハザマ）、高田毅士（日本原子力研究開発機構）、田村良一（新潟工科大学）、恒川裕史（竹中工務店）、中村尚弘（広島大学）、中村博一（フォーラムエイト）、平川倫生（三菱地所設計）、福島誠一郎（リスク工学研究所）、松島信一（京都大学防災研究所）、渡辺哲史（小堀鐸二研究所）</p>		
設置WG (WG名：目的)	確率論的地震ハザードWG：応答スペクトルの確率論的地震ハザード評価結の建築物荷重指針への活用について検討し、骨子をまとめる。		
2020年度予算	200,000円	ホームページ公開の有無：有 委員会HPアドレス： <a href="https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/b-a00/bc00-12/bc20-12.html">https://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/b-a00/bc00-12/bc20-12.html</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	4回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	2020年度大会(関東)諸行事は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 建築物の性能設計とそこで求められる地震荷重や設計用地震動の方法論について、重点課題である、確率論的ハザード評価の利活用と変形を基本とした耐震設計法と地震荷重評価法の標準化について、指針改定に向けた方向性を定め、具体的な検討を開始した。
委員会活動の問題点・課題	1. 建築基準法も含めた性能規定型の設計体系の実現へ向けた検討 2. 国際的な視野・観点に基づく検討 3. 地震調査研究推進本部および関係機関との連携